

地域公共交通確保維持改善事業の評価について

1 概要

- 「地域公共交通確保維持改善事業」の「実施状況の確認」と「評価」は、毎年度、協議会が行う。
- 評価結果は、補助金の交付を受けようとする会計年度の1月末までに地方運輸局等に報告し、公表する。
- 本市では、岡崎市地域公共交通会議において「地域内フィーダー系統確保維持事業」の自己評価を行い、1月末までに、中部運輸局に報告し、公表する。

2 本市の補助対象事業及び補助対象路線について

地域公共交通確保維持事業の区分	補助対象事業	補助対象路線	生活交通確保維持改善計画の策定主体
地域間幹線系統確保維持事業	地域をまたがる幹線バス交通ネットワークの確保維持事業	大沼線、岡崎西尾線、岡崎足助線、岡崎安城線	愛知県公共交通協議会
地域内フィーダー系統確保維持事業	山村振興法に基づき指定された振興山村（額田地域全域）を沿線に含む地域間交通ネットワークと接続する地域内交通の確保維持事業	額田支所市民病院線、下山地区線、形埜地区線、宮崎地区線、豊富・夏山地区線	岡崎市 (岡崎市地域公共交通会議にて協議)

※地域幹線系統確保維持事業については、愛知県公共交通協議会にて評価を実施

【対象路線図】



3 令和6年度 地域内フィーダー系統確保維持事業の流れについて

	内容	日程
①	令和5年第1回岡崎市交通政策会議にて計画協議	R5.5.23
②	運輸局より計画認定	R5.9.29
③	令和6年度計画に基づく事業の実施	R5.10～R6.9
④	岡崎市地域公共交通会議にて自己評価（一次評価）	本日
⑤	国による第三者評価委員会の実施（二次評価）	R7.2予定

4 令和6年度 地域内フィーダー系統確保維持事業の評価について

1 評価目的

「事業の実施状況の確認」「目標達成状況」等の評価を行うことによって、より効果的、効率的に運行されることを目的とする。

2 目標の達成状況と考察（詳細は資料 1-3 のとおり）

○目標の達成状況

路線名	年間利用者数（実数値・（目標値））	利用率（実数値・（目標値））	達成状況
額田支所市民病院線	【達成】5,485人（4,879人）	【達成】0.14%（0.13%）	A
下山地区線	【達成】4,201人（2,635人）	【達成】2.25%（1.32%）	A
形埜地区線	【未達成】111人（409人）	【未達成】0.19%（0.67%）	B
宮崎地区線	【未達成】170人（328人）	【未達成】0.53%（1.01%）	B
豊富・夏山地区線	【未達成】122人（270人）	【未達成】0.08%（0.19%）	B

利用率=日利用者数（※）／沿線人口×100 ※日利用者数=年間利用者数／年間運行日数

路線名	日利用者数（人）	沿線人口（人）	年間運行日数（日）
額田支所市民病院	15.0	10,959	365
下山地区線	17.3	770	243
形埜地区線	2.3	1,190	48
宮崎地区線	3.4	647	50
豊富・夏山地区線	4.4	2,881	51

【参考：令和7年度以降の目標設定方法】（令和6年第1回岡崎市地域公共交通会議にて承認済み）

目標年間利用者数=前年度人口×額田地域の想定人口下落率×利用率×運行日数

目標利用率：令和5年度実績を基に毎年0.01%を加算する。

○評価基準について

	A	B	C
目標・効果達成状況	目標が達成された場合	目標は未達成だが、地域で路線維持等に努める動きが見られた場合	左記以外

○考察

（A評価路線）

- 通勤、通学及び通院への利用が多く、目標を達成した。特に下山地区線は、地区内の高校生や小規模特認校制度を利用して下山小学校に通学する地区外の児童等の定期的な利用者が増加したことを利用者数増加につながった。

（B評価路線）

- 定期的に利用していた高齢者が外出できなくなる一方で、高齢者世代が免許を保有し運転し続けることによりバスの利用者数が減少していると考えられる。目標は未達成だが、地区の総代会及び社会教育委員会が独自で回数券の補助を行うなど、利用促進や路線維持に努める活動が見られるためB評価とした。

○事業の今後の改善点

（A評価路線）

- 引き続き利用促進に努める。

（B評価路線）

- 引き続き回覧等を通じてダイヤや経路等の周知を図ると共に、必要な人が利用できるよう、アンケート結果を分析し、移動ニーズをより反映した公共交通となるよう地域と連携し検討を行う。